



重文指定の 灯台 どうだい？

不動まゆう

①

犬吠埼灯台
(千葉県銚子市)

現役初指定 のぼれるので人気

昨年从今年にかけて5基の現役灯台が国の重要文化財に指定された。そのうちの1つである犬吠埼灯台は、(公社)燈光会の管理する「のぼれる灯台」として年間参観者数トップの人気灯台であり、灯台ファンならずとも多くの人に知られる灯台である。その魅力を重文指定の理由も含めて書き出すことにする。

明治7(1874)年

に初点灯し、第1等レンズを備える現役灯台として最古。高さ約31mの灯塔は煉瓦の二重の円筒構

造として建造され、地震とも可愛い。内部も公開の多い日本において当時、霧笛の録音を聞くことができる他、戦災を受けた初代レンズも保管展示されている。

私的に1つだけ残念な

た今でも変わらぬ姿で君臨している。また、明治期の鉄道建築として貴重な霧笛舎は、カマボコ型の屋根から飛び出すラップがなん点。しかし、これは光源を守るために必要な措置。だからこそ点灯時間が待ち遠しく、点灯前に帰路につく人々を引き留めたてしょうがない。



日没時間が近づくと私の頭の中でオーヴァチュア(序曲)が奏でられ期待感が高まっていく。舞台の幕が上がるようにロールスクリーンが巻かれると「灯台オペラ」の始まりだ。厳かに点灯を始めたメタルハライド電球は、レンズをエメラルド色に輝かせ、のちにダイヤモンドのような輝かしい白色に変える。

夜が濃くなるにつれ、光の尾が水平線を颯爽と走っていく。壮大で美しいこの光景が時代を超えて続いていることに感動を覚える。そして、銚子の人たちに心から愛されるこの灯台は、堂々と自信に満ちあふれて立っている。

(nhv)